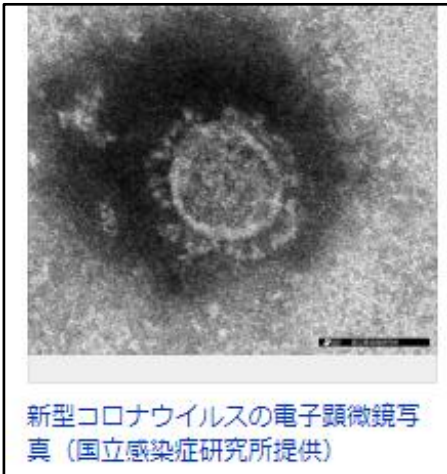


なぜ？佐賀で異常に高い陽性率…90%台の謎

8/22 西日本新聞



新型コロナウイルスの感染「第7波」が猛威を振るう中、佐賀県の陽性率が90%台に跳ね上がっている。陽性率は検査件数に占める陽性者数の割合で、新規感染者数が過去最多の2988人となった17日には96%に達した。取材すると、感染爆発で診察などに追われ、陽性者数のシステム入力にしても、検査件数までは手が回らない医療機関の実情が浮かび上がる。

1カ月前は約60%

県によると、約1カ月前の7月17日の新規感染者数は659人で、陽性率約60%だったが、感染者が急増。新規感染者数が1カ月前の4・5倍となり、過去最多を更新した8月17日には陽性率が約96%に上った。福岡と大分、鹿児島は3県の陽性率（17日公表分）は60～70%台で、陽性者数の捉え方に違いはあるが、佐賀は異常に高い水準だ。

「（県が把握している）検査件数は正確じゃない。医療機関の状況を聞くと、陽性率は上がっているが、6、7割程度だろう」。佐賀県医師会の志田正典副会長は、県が発表する検査件数の正確性を疑問視する。

別のシステムに入力

医療機関は政府の情報共有システム「HER-SYS（ハーシス）」に陽性者数を入力。検査件数については別のシステムに入れる。県は両システムから数値を把握し、発表している。医療関係者によると、感染者の名前や住所などをハーシスに入力するのに、1人当たり5分程度かかる。日中は患者の診療に追われ、別システムへの検査件数の入力も済ませると、深夜になることもあるという。

志田さんは「検査件数も本当は（県に）上げた方が良いが、義務ではなく、手が回らないのが現状だろう」とみる。ある病院関係者は「あまりにも手間がかかるので、検査件数は入力していない」と明かす。

「優先度低い」黙認

佐賀県は感染拡大で医療機関が入力作業に手が回らない可能性を指摘した上で「人命に関わる病床使用率を重視している。それに比べると、陽性率の優先度は低い」として黙認する。

陽性率は検査が行きわたっているかを示す指標の一つだが、信頼性が揺らぐ。宮崎県では陽性者数が検査数を上回り、陽性率が100%を超える事態が発生。「正しい数字が把握できない」として4日以降の数字の公表を取りやめている。

定点観測なら負担減

感染者の全数把握が医療現場の負担になっており、政府は見直しを検討する。佐賀市の「えとう内科・循環器内科」の江頭泰博院長はこう訴える。「定点観測にしてもらえると負担が減るので助かる」

（飯村海遊、井中恵仁、山下航）